

# 第7回 禁煙推進学術ネットワーク学術会議

プログラム・抄録集

## 医療DXで禁煙を加速しよう 健康増進を推進するデジタルテクノロジー

会期

2025年10月4日(土) 9:30 ~ 16:45

会場

全国家電会館(東京都文京区) / ライブ配信

主催

一般社団法人 禁煙推進学術ネットワーク

共催

日本遠隔医療学会、日本公衆衛生学会、日本口腔腫瘍学会

会長

長谷川 高志(日本遠隔医療協会)

田淵 貴大(東北大学大学院医学系研究科)

三浦 雅彦(東京科学大学大学院医歯学総合研究科)



# 目次

---

<b>理事長挨拶</b>	1
<b>基調講演</b>	2
<b>テーマ1 「AI時代の禁煙DX推進」</b>	6
<b>テーマ2 「喫煙による口腔粘膜疾患、口腔がん予防へのDX導入の可能性を考える」</b>	14
<b>テーマ3 「禁煙に活かせ、デジタルテクノロジー」</b>	24
<b>用語集</b>	32

# プログラム

---

## 第7回禁煙推進学術ネットワーク学術会議

(敬称略)

### 9:30 開会式

開会挨拶、理事長挨拶

### 9:45 基調講演

#### 1. 経済産業省が考える医療機器産業振興の取組

～医療機器産業ビジョン、SaMD・NonSaMD の導入加速化、PHR 普及促進～

高山 真澄（経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室）

#### 2. 座長 長谷川 高志（日本遠隔医療協会）

### 10:30 テーマ1 AI 時代の禁煙 DX 推進

座長：大和 浩（産業医科大学）、田淵 貴大（東北大学）

#### 3. 医療従事者による禁煙アドバイスの実態とその影響

尾谷 仁美 (Zatum LLC)

#### 4. 学会における禁煙活動の実態：我々はどうすればよいのか

尾崎 章彦 (福島県立医科大学)

#### 5. AI 時代の禁煙支援：日本版クイットライン WEB 構想も

田淵 貴大 (東北大学)

### 11:55 昼食

禁煙啓発キャラクター すわん君

### 13:20 テーマ2 喫煙による口腔粘膜疾患、口腔がん予防への DX 導入の可能性を考える

座長：三浦 雅彦（東京科学大学）

#### 6. 口腔粘膜疾患と喫煙：増悪因子の除去による治療戦略

三邊 正樹 (東京歯科大学)

#### 7. 診断支援 AI による口腔がんの早期発見：現状と展望

平岡 慎一郎 (大阪大学)

#### 8. 口腔外科における遠隔連携医療

武田 裕利 (東北大学)

### 15:00 テーマ3 禁煙に活かせ、デジタルテクノロジー

座長：佐竹 晃太 (CureApp、日本赤十字医療センター)、長谷川 高志（日本遠隔医療協会）

#### 9. パーソナルヘルスレコード(PHR)で実現する本人主体の医療・健康 DX

石見 拓 (京都大学大学院)

#### 10. DTx とデジタルケアサービスによる禁煙治療

野村 章洋 (金沢大学)

#### 11. 健保・事業主・自治体向けのオンライン禁煙指導について

佐竹 晃太 (CureApp、日本赤十字医療センター)

### 16:30 閉会式

大会長挨拶、次期大会長挨拶

# 理事長挨拶

---

## 「祝 第7回学術会議開催 — 禁煙社会実現に向けて」



一般社団法人 禁煙推進学術ネットワーク  
理事長 朔 啓二郎（福岡大学名誉学長）

第7回禁煙推進学術ネットワーク（TCR-Net）学術会議の開催、心よりお祝い申し上げます。当学会（一般社団法人）は、喫煙によって生ずる疾患と禁煙方法や禁煙治療に関する研究、一般市民への知識の普及・啓発などの禁煙推進活動を通して、種々の禁煙関連疾患の減少に取り組み、国民の健康増進に寄与することを目的とした学会です。現在加盟学会（団体）が32学会、省庁等への要望書・声明は、タバコ税・タバコ注意文言4件、禁煙治療関連が6件、受動喫煙防止については11件、その他に対して5件、積極的に発信してきました。

今回の学術会議は、日本遠隔医療協会（長谷川高志先生）、日本公衆衛生学会（田淵貴大先生）、日本口腔腫瘍学会（三浦雅彦先生）の共催（3名の会長）で行われます。TCR-Netの基本理念は各学会の垣根を超えた融合ですので、スマーケフリー社会実現に向かってワンチームで、この雰囲気を継続します。また、今回の学術会議のテーマは、「医療DXで禁煙を加速しよう： 健康増進を推進するデジタルテクノロジー」です。様々な情報のキャッチアップ、スマートホンアプリ等を利用した生活習慣の改変、AI時代の禁煙支援をいかに考え実行するかです。皆様のホットなディスカッションを期待します。

---

### 【略歴】

昭和53年	福岡大学医学部卒業
昭和56年から4年間	米国シンシナティ大学内科フェロー（Lipid Research Clinic）
平成12年4月～	福岡大学医学部内科学第二（心臓・血管内科学）主任教授
平成25年12月～	福岡大学医学部長
令和元年12月～	学校法人 福岡大学学長
令和6年4月～	社会医療法人喜悦会 理事長

### 【学会等の活動】

- 日本内科学会名誉会員（総合内科専門医）、日本循環器学会特別会員（循環器専門医）  
米国内科学会最高榮譽会員（Master, American College of Physicians: MACP）  
米国心臓病学会フェロー（FACC）、  
王立内科学会フェロー（FRCP）、  
NPO法人臨床応用科学理事長

# 基調講演

---



座長

日本遠隔医療協会／Japan Telemedicine Society  
長谷川 高志／HASEGAWA Takashi

---

## 経済産業省が考える医療機器産業振興の取組

～医療機器産業ビジョン、SaMD・Non-SaMD の導入加速化、PHR 普及促進～

## METI's initiatives to promote the medical device industry

～Vision for the medical device industry, accelerating the introduction of SaMD and Non-SaMD, and promoting the spread of PHR～



経済産業省／Ministry of Economy, Trade and Industry  
高山 真澄／TAKAYAMA Masumi

キーワード：医療機器産業ビジョン、SaMD、Non-SaMD、PHR  
Key Words : Vision for the medical device industry, SaMD, Non-SaMD, PHR

経済産業省は、产学研官で構成する「医療機器産業ビジョン研究会」にて、医療機器産業が目指すべき方向性及び必要な支援策と実施に向けた戦略的取組について議論を行い、その結果を2024年3月に「医療機器産業ビジョン2024」として取りまとめました。その後、同ビジョンを踏まえた取組状況を踏まえつつ、今後の支援に求められる方向性について更なる議論を重ね、2025年6月に「医療機器産業ビジョン2024イノベーション創出及び事業化支援戦略」を策定しました。

今回は、これら文書で取りまとめた内容について説明するとともに、SaMD（Software as a Medical Device）の導入加速化に向けた施策や、PHR（Personal Health Record）利活用の普及促進に向けた取組等について紹介いたします。

高山 真澄／TAKAYAMA Masumi

【所属】

経済産業省 商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室

Medical and Assistive Device Industries Office, Commerce and Service Industry Policy Group, Ministry of Economy, Trade and Industry

【役職】

室長補佐／Deputy Director

【業務分野】

医療機器産業の振興に関すること

【略歴】

東京大学文学部卒。2011年、経済産業省入省。以降、電力・ガス事業政策、福島復興、FTA／EPA交渉、ものづくり振興、クールジャパン戦略(内閣府出向)、経済安全保障政策等に携わる。2024年7月より現職(主に、医療機器産業の方向性や施策等に関する戦略文書の検討・策定や、スタートアップ支援、SaMD振興等を担当)。



テーマ1

# AI 時代の禁煙 DX 推進

## (日本公衆衛生学会)

# テーマ1

## AI 時代の禁煙 DX 推進 Smoke-free DX in the AI Era



座長  
禁煙推進学術ネットワーク／  
Tabacco Control Medical-Dental Research Network  
(左) 大和 浩／YAMATO Hiroshi  
(右) 田淵 貴大／TABUCHI Takahiro

キーワード：禁煙支援、AI、DX、行動変容、啓発  
Key Words : smoke-free, AI, DX, behaviour change, awareness-raising

日本公衆衛生学会タバコ対策委員会にて企画したシンポジウムです。

現在、生成AIなどの発展によりAI時代とも言える状況となっており、様々な分野にてDXの推進が求められており、禁煙支援・タバコ対策も例外ではありません。本シンポジウムは、禁煙支援・タバコ対策の推進のために必要だと考えられる様々な観点についてAI時代の観点も含めて議論します。

タイトル（演者・所属）は下記の通りです。

- 医療従事者による禁煙アドバイスの実態とその影響
  - 尾谷仁美 (Zatum LLC)
- 学会における禁煙活動の実態：我々はどうすればよいのか
  - 尾崎章彦 (福島県立医科大学)
- AI時代の禁煙支援：日本版クイットラインWEB構想も
  - 田淵貴大 (東北大学)

AIやDXの観点も含め、様々なリソースを有効活用してみなさんとともにタバコ対策を推進していくたいと考えております。皆さんの議論への積極的な参画を期待します。

【利益相反】 COI関係にある企業：第一三共ヘルスケア株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー、データシード株式会社、合同会社ワークアウトプラス、株式会社EMMA、アドネス株式会社

大和 浩(ヤマトヒロシ)／YAMATO Hiroshi, MD, PHD.

**【所属】**

産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室／Dept. of Health Development, Institute of Industrial and Ecological Sciences, University of Occupational and Environmental Health, Japan

**【役職】**

教授

**【専門】**

受動喫煙対策、喫煙対策、運動による健康増進

**【労働衛生】**

コンサルタント、日本産業衛生学会指導医

**【社会貢献】**

社会全体の受動喫煙を推進した改正健康増進法への貢献(新幹線、在来線特急、タクシーの禁煙化、約半数の飲食店の禁煙化)

**【喫煙歴】**

浪人時代に吸い始め、7回の禁煙に失敗、8回目の禁煙を36歳から28年間継続中。

**【心の師】**

アントニオ猪木

**【座右の銘】**

元気があれば、禁煙もできる  
迷わずゆけよ、ゆけばわかるさ

田淵 貴大(タブチ タカヒロ)／TABUCHI Takahiro

**【所属】**

東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野／Division of Epidemiology, School of Public Health, Tohoku University Graduate School of Medicine

**【役職】**

准教授

**【専門分野】**

公衆衛生学・疫学

**【業績・略歴】**

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

専門は公衆衛生学・疫学(医師・医学博士・社会医学系専門医・指導医)。血液内科医を経て、医学博士(大阪大学)取得後、大阪国際がんセンター勤務。2024年から現職。データベース研究・がん疫学・タバコ対策や健康格差の研究に主に従事。著書に「新型タバコの本当のリスク」「Science and Practice for Heated Tobacco Products」「新型コロナ検証SP」等

## 医療従事者による禁煙アドバイスの実態とその影響

# Healthcare Providers' Advice for Tobacco Cessation and Its Association with Quit Attempts



Zatum LLC  
尾谷 仁美／ODANI Satomi

キーワード：禁煙アドバイス、禁煙試行、一次医療、タバコ使用率、全国調査  
Key Words : Cessation Advice; Quit Attempt; Primary Health Care; Tobacco Prevalence; Surveillance

### 【目的】

禁煙アドバイスの実施は臨床ガイドラインで推奨されているが、日本における実態は明らかでない。禁煙外来の利用は2014年以降減少しており、その背景には一部の喫煙者が加熱式タバコなど新型製品を禁煙手段として利用している可能性がある。2021年以降はバレンクリン（チャンピックス®）の供給停止により、禁煙を望んでも適切な医療支援を受けられない人の増加が報告されている。本研究では、医療従事者による禁煙アドバイスの実施状況と禁煙行動への影響を明らかにする。

### 【方法】

2024年に実施された全国調査（日本における社会と新型タバコに関するインターネット調査：JASTIS）のデータを横断分析した。16～74歳の参加者27,374人を対象に、タバコ製品の使用率（過去30日間の使用有無）を把握した。使用者には医療従事者からの禁煙アドバイス受領状況と、過去1年間に1日以上継続した禁煙試行の有無を調査した。関連性の評価には多変量ポアソン回帰分析を行った。

### 【結果】

全体の24.5%がタバコを使用しており、紙巻（17.8%）が最多で、次いで加熱式タバコ（12.9%）であった。使用者（N=6,361）のうち禁煙アドバイスを受けたのは13.2%、禁煙を試みたのは26.7%であった。通院中の使用者（N=2,779）でもアドバイスを受けた割合は20.9%にとどまり、その多くは医師（10.3%）と看護師（8.0%）からであった。禁煙試行は29.9%であった。アドバイスを受けた者は、受けていない者に比べ、1人の専門職から助言を受けた場合で28%、複数の専門職から助言を受けた場合で61%禁煙試行の可能性が高かった。また、加熱式タバコ単一使用者は紙巻タバコ単一使用者に比べ、禁煙試行の可能性が43%低かった。

### 【考察】

日本における禁煙アドバイスの実施率は国際的に見ても低水準だが、禁煙行動促進との強い関連が確認された。今後は政策、教育、システムレベルでの介入を通じ、医療従事者による禁煙支援の強化が不可欠である。

【利益相反】 開示すべき利益相反なし。

尾谷 仁美／ODANI Satomi

【所属】

Zatum LLC

【役職】

疫学研究職／Epidemiologist

【専門分野】

公衆衛生学／疫学／タバコ対策／がん対策／健康格差

【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

学歴	2008年	大阪大学医学部保健学科 卒業
	2016年	Emory University 公衆衛生学修士課程 修了
	2024年	大阪大学医学系研究科 環境医学専攻博士課程 修了
職歴	2008年	大阪医科大学病院 臨床検査技師
	2016年	米国疾病予防管理センター（CDC）Office on Smoking and Health 研究員
	2020年	大阪国際がんセンター がん対策センター研究員
	2023年	東京財団政策研究所 研究員
	2025年～	Zatum LLC(米国アトランタ)研究員

### 学会における禁煙活動の実態：我々はどうすればよいのか

## The State of Smoking-Cessation Activities in Medical Societies: What Should We Do?



常磐病院、福島県立医科大学／  
Jyoban Hospital of Tokiw Foundation, Fukushima Medical University  
尾崎 章彦／Akihiko Ozaki

キーワード：たばこ産業、利益相反、医学会、研究支援  
Key Words : Tobacco Industry; Conflict of Interest; Societies, Medical;  
Research Support as Topic

#### 【目的】

タバコ産業資金は医療・研究の中立性に影響を及ぼす可能性がある。日本たばこ産業が拠出する喫煙科学研究財団（SRF）の助成実態は十分検証されておらず、同時に禁煙推進の要である日本の医学会における対策の実装度にもばらつきがある。本発表の目的は、2018年のSRF助成配分と、日本の医学会における禁煙関連施策の現状を明らかにすることである。

#### 【方法】

SRFの2019年度年次報告書から2018年の助成データを抽出し、若手助成（≤50万円）・一般助成（≤200万円）の対象者において、性別・専門・資格・所属・職位をオンラインソースも用いて抽出した。併せて日本医学会に所属する143の医学会の公式サイトを横断調査し、禁煙宣言、会員の禁煙要件、委員会設置、学術集会での喫煙関連セッション、禁煙推進ネットワーク参加、COI規程でのたばこ産業の明記、加熱式たばこへの対応を抽出し群間比較した。

#### 【結果】

SRFは総額約3.58億円を633名に配分し、平均助成額は約56.6万円、546人（86.3%）が男性であった。その他、専門分野としては内科（188人、29.7%）、職業は医師（332人、52.4%）、所属は国公立大学（417人、65.9%）がそれぞれ最多であった。学会調査の結果、禁煙宣言を発出していたのは28／143学会（19.6%）にとどまった。全会員に禁煙を求めていたのは4学会（2.8%）のみで、利益相反規程でたばこ産業に言及していたのは7学会（4.9%）であった。禁煙委員会の設置は13学会（9.1%）、加熱式たばこへの言及は18学会（12.6%）にとどまった。

#### 【考察】

SRFによる研究資金は、影響力の大きい医療者・研究者層に広く配分されていた。一方で、学会レベルの対策実装は依然として不十分であり、タバコ関連資金に対する個人レベルでの規範の徹底と、組織の独立性を担保する制度的枠組みの強化が求められる。

【利益相反】尾崎章彦は、第一三共、ファイザー、大鵬薬品、協和キリン、日本BDより謝金（講演料等）を受領している。併せて、利益相反に関する研究に継続的に従事している。

尾崎 章彦／Akihiko Ozaki

【所属】

公益財団法人ときわ会常磐病院乳腺甲状腺センター／Department of Breast and Thyroid Center, Jyoban Hospital of Tokiwa Foundation

【役職】

センター長

【専門分野】

医学(外科学、乳腺腫瘍学)、公衆衛生学

【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

2010年東京大学医学部卒業。2012年より、東日本大震災後の福島において臨床・研究に従事。臨床は乳腺・甲状腺疾患および一般内科を担当。研究は震災後の健康課題ならびに製薬企業から医療者への資金提供の実態・透明性に主軸を置く。資金提供データベース「Yen For Docs」(<https://yenfordocs.jp/>)を主宰し、2024年10月1日からは医療機器関連資金の公開も開始。近時は喫煙・たばこ関連の研究にも取り組んでいる

## AI 時代の禁煙支援：日本版クイットライン WEB 構想も Smoking Cessation Support in the AI Era: A Japanese Quitline Web



東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野／  
Division of Epidemiology, School of Public Health, Tohoku University Graduate  
School of Medicine  
田淵 貴大／TABUCHI Takahiro

キーワード：禁煙支援、AI、クイットライン、行動変容、啓発  
Key Words : smoke-free, AI, Quitline, behaviour change, awareness-raising

現在、日本は、禁煙支援のための重要なツールであるクイットライン（禁煙電話相談や禁煙推進のためのWEBサイト）が十分に整備されているとは言えない状況です。本発表では、禁煙支援・タバコ対策の推進のために必要だと考えられるAI時代の禁煙支援策や禁煙DXについてクイットラインの観点も含めて議論します。

内容として、下記を考えています。

- ・AI時代の到来や禁煙推進のためのAI活用
- ・禁煙DXにおける重要な取り組みとしてのクイットライン
- ・日本版クイットラインWEB構想
- ・産学連携も推進して進める禁煙DX

【利益相反】 COI関係にある企業：第一三共ヘルスケア株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社  
ビジョンケア カンパニー、データシード株式会社、合同会社ワークアウトプラス、株式会社EMMA、アドネス株式会社

---

略歴につきましては、P.7を参照してください。

テーマ2

## **喫煙による口腔粘膜疾患、口腔がん予防への DX導入の可能性を考える**

**(日本口腔腫瘍学会)**

## テーマ2

### 喫煙による口腔粘膜疾患、口腔がん予防への DX 導入の可能性を考える



座長

東京科学大学歯科放射線診断・治療学分野／

Department of Dental Radiology and Radiation Oncology Institute of Science

三浦 雅彦／MIURA Masahiko

キーワード：喫煙、口腔粘膜疾患、口腔がん、AI、歯科遠隔診療

歯科領域におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)では、口腔内スキャナーによる光学スキャンデータをもとに、CAD/CAMによる補綴物の作製が既に実装化されており、最も進展している分野であると思われる。近年、通信情報機器を用いた歯科オンライン連携診療が提案され、新規に保険収載もなされて、口腔がんの経過観察や医科歯科連携診療に活用されつつある。また、X線画像診断、口腔粘膜疾患や口腔がんの診断にAIを利用するなどの研究も進んでいる。本シンポジウムでは、まず、喫煙による口腔粘膜疾患、口腔がんとはどのようなものかを解説頂き、AIを活用した先端的な早期口腔がんの診断、そして遠隔連携診療の実際と展望について、それぞれ先端的な領域でご活躍されている先生方にご講演いただき、DXの導入が、喫煙による口腔粘膜疾患や口腔がんの予防にどのように役立ちうるかについて、議論する。

【利益相反】開示すべき利益相反なし

三浦 雅彦(ミウラ マサヒコ)／MIURA Masahiko

【所属】

東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯科放射線診断・治療学分野／Department of Dental Radiology and Radiation Oncology Graduate School of Medical and Dental Sciences Institute of Science Tokyo

【役職】

教授

【専門分野】

放射線腫瘍学、放射線生物学

【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

1987年 3月 東北大学歯学部歯学科卒業

1991年 3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了

1992年 4月 日本学術振興会海外特別研究員(Thomas Jefferson University)

2008年 9月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授

2024年 10月 東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授

日本口腔腫瘍学会 理事

日本歯科放射線学会 常任理事

日本放射線腫瘍学会生物部会 常任幹事

国際癌治療増感研究協会 常任理事、副会長

### 口腔粘膜疾患と喫煙：増悪因子の除去による治療戦略



東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座／  
Tokyo Dental College, Department of Oral oncology, Oral and Maxillofacial

三邊 正樹／MINABE Masaki

キーワード：口腔粘膜疾患、口腔扁平苔癬、喫煙、増悪因子、禁煙指導  
Key Words : 5 Words

口腔扁平苔癬（OLP）はT細胞依存性の慢性炎症性疾患であり、口腔潜在的悪性疾患に分類され、癌化率は0.4～5%とされる。治療の第一選択はステロイド外用療法だが増悪因子を除去できない場合、薬物療法のみでの病勢制御は困難となる。OLPの増悪因子として喫煙が挙げられるが、喫煙歴を有する症例の特徴に関する報告は少ない。今回、OLP患者における喫煙歴の有無による臨床的および病理学的特徴の違いを後ろ向きに検討した。対象は2021～2024年に当科でOLPと診断された292例（喫煙群62例、非喫煙群230例）であり、性別、年齢、臨床型（白色型/紅色型）、病変部位、病勢（Reticulation Erythema and Ulceration score: REUs）、病理所見（異型性の有無、典型例/非典型例）について、正規性を確認（Shapiro-Wilk検定）後、単変量解析（Fisher検定、Wilcoxon符号順位検定）を行った。有意差があった臨床型とREUs改善率については、多変量ロジスティック/線形回帰分析（目的変数：白色型・紅色型/REUs変化率）で他の因子を調整して関連性を検討した。喫煙群は若年で男性の割合が高く、白色型が多かった（77.4% vs 58.8%, OR=2.82）。REUsの改善率は喫煙群で低く、Brinkman Index (BI) 200以上の群で特に低下傾向を示した。多変量解析では、喫煙が白色型と有意に関連する独立因子であり、頬粘膜、舌、両側性病変も白色型と関連していた。REUs改善率に関しては、いずれの因子も有意差はなかった。本研究より、OLPの臨床型（白色型）と喫煙との強い関連が示された。治療効果において喫煙は独立因子ではなかったが、喫煙群ではREUs改善率が低く、BI高値群でさらに低下傾向がみられたことから、増悪因子の除去として禁煙指導の重要性が示唆された。

---

三邊 正樹(ミナベ マサキ)／MINABE Masaki

【所属】

東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座／Tokyo Dental College, Department of Oral Oncology, Oral and Maxillofacial Surgery

【役職】

助教

【専門分野】

口腔外科全般、口腔内科全般、口腔粘膜疾患

【業績・略歴】

《略歴》

2012年3月	東京歯科大学卒業
2012年4月	東京歯科大学 市川総合病院 歯科臨床研修医
2013年4月	東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 レジデント
2018年3月	東京歯科大学 大学院歯学研究科(オーラルメディシン・口腔外科学講座)修了
2018年4月	東京歯科大学 オーラルメディシン・口腔外科学講座 レジデント
2020年4月	医療法人社団常仁会 牛久愛和総合病院 歯科口腔外科 医長
2020年4月	東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座 非常勤講師
2021年4月	東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座 助教
現在に至る	

《資格》

- 日本口腔外科学会専門医
- 日本口腔内科学会専門医・指導医
- 日本口腔診断学会認定医・指導医

《受賞歴》

- 第60回日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀口演発表賞
- 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀ポスター発表賞
- 第37回日本口腔診断学会第34回日本口腔内科学会 合同学術大会 大会長賞

## 診断支援 AI による口腔がんの早期発見：現状と展望

# Early Detection of Oral Cancer with Diagnostic Support AI: Current Status and Prospects



大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔外科学講座／

Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Graduate School of Dentistry,  
The University of Osaka

平岡 慎一郎／HIRAOKA Shin-ichiro

キーワード：口腔がん、診断支援AI、医療DX、早期発見

Key Words: Oral Cancer, Diagnostic Support AI, Medical DX, Early Detection

喫煙は口腔がんの最大のリスク因子であり、本疾患の克服には治療成績を大きく左右する早期発見が極めて重要となる。口腔がんは内視鏡等の特別な診療機器を必要とせず視診でも発見可能である一方、初期病変は口内炎などの良性疾患との鑑別が難しく、その診断は口腔癌を専門としない歯科医師・医師にとって容易ではない現状がある。こうした背景から我々は、医療DXの一環として、一般の開業歯科医師や医師でも日常臨床で利用可能な口腔内写真を用いた診断支援AIシステムの開発に取り組んでいる。本AIは、大阪大学歯学部附属病院を含め全国7施設から多様な条件下で収集した約4万枚の口腔内写真データベースを基に、米国Nvidia社との産学共同で開発した。専門医による精密なアノテーションが付与された口腔癌、前がん病変、良性病変などの画像を用いて深層学習を行い、病変の鑑別と悪性度判定を実行する。開発したAIは、専門医に匹敵する高い精度（感度・特異度90%以上）で口腔がんを検出し、施設毎に撮影機材や条件が異なる不均一な画像群に対しても安定した性能を維持することから、実臨床における高い汎用性も示された。本システムは日常の歯科診療におけるスクリーニングの質を飛躍的に向上させるだけでなく、特に喫煙者に対しては、自身の口腔内画像をAIによる客観的なリスク評価と共に提示することで、漠然とした将来への不安を可視化させ、禁煙への動機付けに繋がるものと考えている。AIによる早期発見は低侵襲治療を可能とし、患者のQOL維持にも直結する。現在、社会実装に向けて準備を進めており、将来的には医療資源が乏しい地域を含めた全体の診断レベルの底上げに貢献できるものと期待される。本講演が、本会テーマである医療DXによる禁煙推進の一助となれば幸甚である。

### 【利益相反】

あり 共同研究費

平岡 慎一郎(ヒラオカ シンイチロウ)／HIRAOKA Shin-ichiro

【所属】

大阪大学大学院歯学研究科 頸顔面口腔外科学講座／Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Graduate School of Dentistry, The University of Osaka

【役職】

講師

【専門分野】

口腔外科

【業績・略歴】

2002年広島大学歯学部卒、2006年大阪大学大学院にて歯学博士号取得。テキサス大学MDアンダーソンがんセンター臨床留学後、現在、大阪大学大学院歯学研究科頸顔面口腔外科学講座、講師。専門は口腔外科、口腔癌で、日本口腔外科学会専門医、指導医、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医、指導医。近年は診断支援AIシステムの産学共同開発を主導し、日本メディカルAI学会評議員を務め、医療DXの推進に努めている。

### 口腔外科における遠隔連携医療

### Telemedicine in oral and maxillofacial surgery



東北大学大学院歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 頸顎面口腔再建外科学分野／  
Division of Oral and Maxillofacial Reconstructive Surgery, Department of

Management Dentistry, Tohoku University Graduate School of Dentistry  
武田 裕利／TEKEDA Yuri

キーワード：歯科遠隔連携診療、地域医療格差、ICT  
Key Words : Dental telemedicine, regional healthcare disparities, ICT

喫煙は、抜歯をはじめとした口腔外科手術後の治癒遅延、薬剤関連頸骨壞死、口腔癌の発症のリスク因子として広く知られており、口腔外科診療における重要な健康課題である。口腔外科医は日常診療で喫煙者に接する機会が多いが、限られた診療時間や環境的制約から十分な禁煙支援を実施することは困難である。一方、近年のICT技術の発展により遠隔医療の活用が注目されており、少子高齢化の社会的背景から特に過疎地域では通院負担や専門医不足の解消策として期待が高まっている。歯科領域においても地域間の格差が問題となっているが、一般的なPC内蔵カメラでは口腔内の詳細な情報共有が難しく、遠隔診療の普及は限定的であった。

われわれは口腔内カメラを用いた高精細撮像とWeb会議システムを組み合わせた歯科遠隔連携診療システムを構築し、「D to P with D」形式で過疎地域の主治医と高次医療機関の専門医が連携する体制を確立した。本システムにより、患者の口腔内映像をWeb会議システム上で高次医療機関の口腔外科医と共有することで、「患者は地元の過疎地域にいながら口腔外科専門医による診察を受けることが可能」となり、口腔がん手術後やその他疾患の経過観察に活用されている。また、通院負担の軽減とともに、現地歯科医師への教育的効果も認められ、地域歯科医療格差の是正に寄与している。

さらに本システムは、歯科遠隔連携診療に付随して、喫煙者の多いとされる過疎地域の禁煙支援を包括的に行うための有効な基盤となり得る。オンラインによる継続的な生活習慣指導やAI技術を用いた画像解析との統合により、喫煙関連疾患の早期発見・予防、さらには再発防止に資する新たな診療モデルの構築が期待される。

本シンポジウムでは、われわれの取り組みを紹介するとともに、遠隔連携医療を活用した禁煙支援の可能性について展望を述べたい。

【利益相反】開示すべき利益相反なし。

武田 裕利(タケダ ユウリ)／TEKEDA Yuri

【所属】

東北大学大学院歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 頸顎面口腔再建外科学分野／Division of Oral and Maxillofacial Reconstructive Surgery, Department of Disease Management Dentistry, Tohoku University Graduate School of Dentistry

【役職】

助教

【専門分野】

口腔外科

【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

2011年3月	九州歯科大学歯学部卒業
2011年4月	九州歯科大学附属病院 研修医
2016年3月	東北大学大学院歯学研究科 修了(顎顔面・口腔外科学分野)
2016年4月	JCHO 仙台病院 歯科口腔外科 常勤
2017年4月	東北大学病院 歯科顎口腔外科 医員
2018年4月	東北大学大学院歯学研究科 顎顔面・口腔外科学分野 助教
2023年4月	東北大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔再建外科学分野 助教
現在に至る	



テーマ3

## **禁煙に活かせ、デジタルテクノロジー (日本遠隔医療学会)**

# テーマ3

---



座長  
日本遠隔医療協会  
佐竹 晃太／SATAKE Kohta

---

佐竹 晃太(サタケ コウタ)／SATAKE Kohta

【所属】

第一所属機関：日本赤十字社医療センター呼吸器内科／Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Medical Center

第二所属機関：株式会社CureApp(CureApp, Inc.)

【役職】

株式会社CureApp代表取締役社長

【専門分野】

呼吸器内科

デジタル療法 / デジタル医療

【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

2007年3月 慶應義塾大学医学部卒業

2012年6月 中欧国際工商学院(CEIBS)へ留学後、経営学修士号(MBA)修了

2014年5月 ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院卒業。公衆衛生学修士号

(MPH)修了

2014年7月 株式会社CureAppを創業

治療アプリ(DTx)の研究開発を行う他、現在も診療を継続し医療現場に立ちながら、日本遠隔医療学会理事長・デジタル療法分科会長・日本禁煙学会評議員として学術活動も活発に推進している。

## 禁煙に活かせ、デジタルテクノロジー

# Leveraging Digital Technology for Smoking Cessation



座長

日本遠隔医療協会／Japan Telemedicine Society  
長谷川 高志／HASEGAWA Takashi

キーワード：医療DX、PHR、SaMD、行動変容

Key Words : Healthcare Digital Transformation (Healthcare DX), Personal Health Record (PHR), Software as a Medical Device (SaMD), Behavioral Change

医療DXは健康増進、とりわけ禁煙指導に大きな変革をもたらすことができる。正確で網羅的な健康情報を適切に把握し、身体や生活習慣の状態をタイムリーに確認できることは、喫煙の害を自覚し、行動変容を促すための王道である。その基盤を支える仕組みとして、医療DXの展開が期待される。

具体例として、パーソナルヘルスレコード（PHR）を活用した健康状態の可視化や、時間や場所に制約されないデジタル療法、オンライン健康指導による介入が挙げられる。さらに、AIをはじめとする新技術がこれらの取り組みを加速する。

しかし現時点では、医療DXはまだ黎明期にあり、市民のみならず医療者においてもデジタル技術への理解や活用は十分とはいえない。今後はまず、医療者自身がデジタル技術の基礎や利点を理解し、禁煙推進に活かすことが求められる。

このような背景を踏まえ、本企画「禁煙に活かせ、デジタルテクノロジー」では、PHR、デジタル療法、オンライン指導の分野を先導する専門家と共に最新の知見や実践的アプローチを共有する場したい。

長谷川 高志(はせがわ たかし)／HASEGAWA Takashi

【所属】

特定非営利活動法人日本遠隔医療協会／Japan Telemedicine Society

【役職】

特任上席研究員

【専門分野】

遠隔医療の制度的評価、医療情報学、コンピュータサイエンス

【業績・略歴】

慶應義塾大学大学院工学研究科修了、1990年代から企業で遠隔医療の研究に従事、その後東北大大学、国際医療福祉大学、群馬大学を経て、現職。日本遠隔医療学会常務理事・社会保険委員長および内科系学会社会保険連合 遠隔医療関連委員会 副委員長。

AMED技術調査員、厚生労働科学研究の研究分担者(複数)、内閣府規制改革推進会議、総務省懇談会等の有識者や委員等多数

# パーソナルヘルスレコード（PHR）で実現する本人主体の医療・健康 DX

## Patient-centered Medical and Health Digital Transformation (DX) Enabled by Personal Health Records (PHR)



京都大学大学院医学研究科 予防医療学分野／  
Dept. of Preventive Services, Graduate School of Medicine, Kyoto University  
石見 拓／IWAMI Taku

キーワード：PHR、医療DX、ライフログ、禁煙、本人主体  
Key Words : PHR, Medical digital transformation, Life log data, Smoking cessation, Human-centered

国を挙げた医療DX実現に向けた取り組みが急速に進展しつつある中、PHR（Personal Health Record）を活用した本人主体の健康医療DXが注目を集めている。

PHRは、生涯にわたる個人の予防接種歴、薬剤情報、検査結果や健診結果、診療関連情報、及び個人が日々記録するバイタル等を指し、電子記録として本人等が正確に把握し、自身の健康増進等に活用することが期待されている。わが国には、充実した医療提供体制に加え、乳幼児健診、学校健診に始まり、生涯にわたって幅広く国民をカバーした健診制度がある。この生涯を網羅した健診制度と手帳文化を活かし、ウェアラブルデバイス等と連携し日常的なライフログもPHRの中で活用することで、日常の健康状態、食事や運動、睡眠といった生活習慣に関わるデータに基づく健康管理・健康増進、医療の発展が期待できる。禁煙の推進に当たっても、日々の喫煙状態の把握はもちろん、健診や診療時の記録の共有、行動目標の記録や本人の同意のもとでの家族や医療者、支援者との共有など、PHRを活用した禁煙支援への活用が期待される。更に、ウェアラブルデバイスやEHRとの連携により、日々のSpO2や呼吸数、脈拍数の変化といった従来把握が難しかったライフログデータを用いた精緻な体調管理、呼吸機能、レントゲンなどの医療情報の蓄積とAIを組み合わせた予防医療や早期治療の実現、ハイリスクポピュレーションのスクリーニングによる治療介入など、禁煙の推進に当たっても様々な健康医療DX実現が期待される。

しかし、医療者を含め、禁煙の指導・支援に関わる関係者のPHRに関する認知度、理解が十分に深まっているとは言えない。PHRを活用した本人主体の健康医療DXを実現するために何が求められるか議論したい。

石見 拓(イワミ タク)／IWAMI Taku

【所属】

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 予防医療学分野／Department of preventive services, school of public health, graduate school of medicine, Kyoto university

【役職】

教授

【専門分野】

循環器内科、蘇生科学、臨床疫学、予防医療学、実装科学

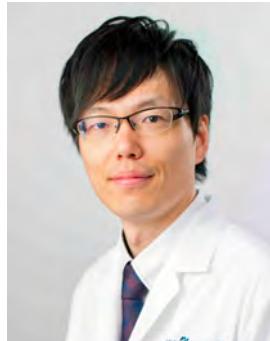
【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

群馬大学医学部卒業。大阪大学大学院(救急医学)博士課程、京都大学大学院臨床研究者養成コース修了。「医療のフォーカスを院外へ当てること」「研究成果を社会実装すること」をモットーに心肺蘇生・AEDの効果検証と普及活動、PHRの社会実装に向けた取り組みに従事。

## DTxとデジタルケアサービスによる禁煙治療

### Smoking cessation programs using DTx and digital care service



金沢大学融合研究域融合科学系／  
Division of Convergence Science, Kanazawa University Graduate School of  
Frontier Science Initiative  
野村 章洋／NOMURA Akihiro

キーワード：デジタル療法、デジタルケアサービス、デジタルヘルス、遠隔医療  
Key Words: Digital therapeutics (DTx); Digital care service; Digital health;  
Telemedicine

禁煙治療の分野においては、主に外来における標準禁煙治療プログラムに上乗せして使用することで継続禁煙率の向上が期待できるスマートフォンアプリ “CureApp SC” が2020年に日本において薬事承認・保険償還された。以降、禁煙治療の選択肢として「デジタル療法(Digital Therapeutics, DTx)」が加わった。デジタル療法とは、WHOが2018年に提唱した「デジタルヘルス介入(Digital Health Intervention, DHI)」に含まれ、デジタル機器を介した教育的な情報の提供、個人健康情報の確認、ならびに医師・医療関係者等が行う対話型コーチング等を組み合わせることで、特定の病気を有する患者に対して治療を提供するソフトウェアによる新しい治療法を指す。特に、スマートフォンをはじめとしたデジタル端末に専用のソフトウェアアプリをインストールし、治療を提供するデジタル療法を「治療アプリ」と呼ぶ。

デジタル療法(DTx)は、これまで主に医療機関において対面で提供されてきた従来型医療と比較して、モバイル端末を介することで、患者さんの日常生活のさなかにおいても治療介入ができる点が特徴である。近年、DTxは薬事承認された医療機器を医療機関で処方する処方型DTxだけでなく、非処方型DTxやDTx/ヘルスアプリを組み合わせたデジタルケアサービスにまでその裾野を広げ、日本でも禁煙を様々なにサポートするデジタルケアサービスが複数展開されている。本講演では、日本におけるこのようなDTxとデジタルケアサービスの現状と展望について概説する。

【利益相反】 野村章洋は株式会社CureAppより共同研究費を受領しています。

野村 章洋(ノムラ アキヒロ)／NOMURA Akihiro

【所属】

金沢大学融合研究域融合科学系／附属病院循環器内科／Division of Convergence Science, Kanazawa University Graduate School of Frontier Science Initiative

【役職】

教授

【専門分野】

循環器学、デジタル医療

【業績・略歴】

※学歴、職歴、学会活動、社会活動・著書・受賞歴など

2006年金沢大学医学部医学科卒業。聖路加国際病院内科、小倉記念病院循環器内科、マサチューセッツ総合病院リサーチフェローを経て現職。循環器内科医として臨床に携わりながら、金沢大学融合研究域科学系 教授、金沢大学先端観光科学研究所 共感部門 部門長、金沢大学能登里山里海未来創造センター 未来創造部門 副部門長を兼任。

### 健保・事業主・自治体向けのオンライン禁煙指導について

## Online Smoking Cessation Program for Health Insurance Societies, Employers, and Municipalities



日本赤十字社医療センター呼吸器内科／  
Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Medical Center  
株式会社 CureApp／CureApp, Inc.  
佐竹 晃太／SATAKE Kohta

キーワード：禁煙、オンライン支援、加熱式タバコ  
Key Words: Smoking cessation, Online support, heated tobacco product

喫煙は主要な予防可能な健康リスクであり、医療費増大や生産性低下の要因となるため、健保や事業主、自治体において禁煙支援の重要性が高まっている。しかし従来の禁煙外来は、通院の手間や地域格差により利用率が低く、新たな支援モデルが求められている。こうした背景から、ICTを活用したオンライン禁煙プログラムが注目されている。

その一例として、株式会社CureAppが提供する「ascure 卒煙プログラム」に関する大規模解析が報告されている。解析対象は2952例であり、紙タバコ群1524名（52%）、加熱式タバコ（HTP）群1038名（35%）、併用群390名（13%）に分類された。主要評価項目である21～24週継続禁煙率は、紙タバコ群52.6%、HTP群64.8%、併用群48.7%であった。HTP群は紙タバコ群と比較して有意に高い禁煙率を示した（オッズ比 1.17, 95% 信頼区間 1.12–1.22, P<0.001）。プログラム継続率は紙タバコ群68.4%、HTP群75%、併用群67.9%であった。このプログラムはHTP使用者にとって有用な選択肢であるとともに、紙タバコ喫煙者にとっても有効な支援となり得ることが示唆された。

このように、オンライン禁煙指導は通院困難な層を含む幅広い喫煙者に対応可能であり、健保や企業における医療費抑制、自治体での住民健康増進といった社会的波及効果も期待される。今後は、さらなる長期的評価や費用対効果の検証を通じて、公衆衛生施策としての活用が進展することが望まれる。

【利益相反】演者は株式会社CureAppの代表取締役社長であり、同社は本プログラムを提供している

---

略歴につきましては、P.22を参照してください。



# 用語集

---

## 1. 身の回りのDXサービス

近年、デジタルツールは身の回りに急速に浸透してきました。ここで挙げるサービスは、安価かつ容易に使えるものが多いです。

- ・Web会議システム(Zoom, Teams, WebExなど)

出張や集合会議を減らし、場所を選ばず打ち合わせが可能。

- ・チャットツール(LINE, Slackなど)

電話やメールに代わり、リアルタイムで効率的な連絡ができる。

- ・クラウドストレージ(Google Drive, Dropbox, OneDrive,iCloud)

USBメモリや印刷物による情報の共有の代わりに、どこからでも安全にファイル利用が可能。

- ・オンライン共同編集(Google Docs, Office 365)

クラウド上で、複数人で同時に文書や表計算を編集できる。

- ・ウェアラブルデバイス(Apple Watch, Fitbitなど)

心拍や歩数、睡眠を自動記録して生活改善に役立つ。

- ・電子決済(PayPay, Suica, Apple Payなど)

現金を持たずに安全・スムーズに支払いができる。

- ・オンライン行政手続き(マイナポータルなど)

役所に行かずに申請や書類提出が可能。

- ・電子処方箋

医療機関と薬局がオンラインでつながり、紙の処方箋が不要に。

- ・生成AI(ChatGPT, Copilot, Geminiなど)

文章作成や翻訳、要約、質問応答を自動で支援。

- ・recommend機能(Amazon, Netflix, Spotifyなど)

Amazonなどの買い物足とで、買い物・動画視聴・音楽再生など、過去の利用履歴を基に最適な商品やコンテンツを自動的に提案する。

## 2. デジタル・ICT関連

医療に限らず、社会全般で高度に発展し、すでに広く利用されているデジタル技術について、主要なものの概要を示します。

- ・AI(人工知能)

人間の知的作業を模倣するコンピュータ技術。医療では診断や予測に活用される。

- ・深層学習AI(Deep Learning AI)

多層のニューラルネットワークを使って画像や音声など複雑なデータを解析するAI手法。

- ・**生成AI(Generative AI)**

文章や画像を新しく作り出すAI。対話支援や文章要約に応用されている。

- ・**LLM(Large Language Model、大規模言語モデル)**

大量のテキストを学習したAI。自然な会話や文章生成が可能。

- ・**DX(Digital Transformation デジタルトランスフォーメーション)**

デジタル技術で業務や社会の仕組みを変革すること。

- ・**ICT(Information and Communication Technology 情報通信技術)**

コンピュータと通信を組み合わせた技術の総称。

- ・**クラウドサービス**

インターネット経由で提供されるソフトやデータ利用サービス。

- ・**ウェアラブルデバイス**

体に装着して心拍や歩数などを測定できる端末。

### 3. 医療DX・デジタルヘルス関連

医療や健康領域でデジタル技術を活用する様々なサービスの概要を示します。診療記録の電子化、AIを用いた診断支援、健康アプリやオンライン指導など幅広く含まれます。

- ・**PHR(Personal Health Record)**

個人が主体的に管理する健康・医療データ。

- ・**EHR(Electronic Health Record)**

医療機関が管理する電子カルテ情報。

- ・**SaMD(Software as a Medical Device)**

医療機器として認可されたソフトウェア。医療AIとデジタル療法が共に含まれる。例:心電図解析アプリ、糖尿病治療支援アプリ。禁煙指導アプリ

- ・**Non-SaMD**

医療機器に該当しない健康関連ソフトウェア。例:フィットネスアプリ、睡眠記録アプリ。

- ・**DTx(Digital Therapeutics、デジタル療法)**

アプリなどで行動変容や治療を支援するデジタル治療法。

- ・**デジタルヘルス介入**

アプリやオンライン相談などデジタルを用いた健康支援の方法。

- ・**診断支援AI**

画像やデータを解析して診断を補助するAI。

- ・**ライフログ**

日常生活の行動・健康データを記録したもの。

## 4. 遠隔医療関連

- **遠隔医療**

通信技術を使い、離れた場所の患者に医療を提供すること。

- **オンライン診療**

インターネットで医師と患者が診察を行う仕組み。

- **オンライン健康指導**

保健師や管理栄養士がオンラインで指導を行うサービス。

- **遠隔連携診療**

専門医が他の医師を支援する形で行う遠隔診療。

- **DtoP(Doctor to Patient)、Dtp with D**

医師と患者（Patient）の遠隔診療。必要に応じて看護師など（with Doctor）が加わる形態。

# 協賛・広告

---

## 協賛



### ハートラボ株式会社

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町6丁目3番7 クリエイティブラボ神戸3階  
<https://heart-lab.co.jp/>

### 川合労働衛生コンサルタント事務所 川合厚子

〒999-2244 山形県南陽市島貫599-1  
atsuko.kawaia@gmail.com

## 広告



### 一般社団日本遠隔運動療法協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2丁目23-1 ニューステイトメナー956  
電話 03-4400-2250  
<https://www.jaret.jp/>

# 維持期オンライン心臓リハビリテーション Tele-MedEx Club

遠隔心臓リハビリテーション  
栄養指導  
禁煙など

包括的  
心リハ

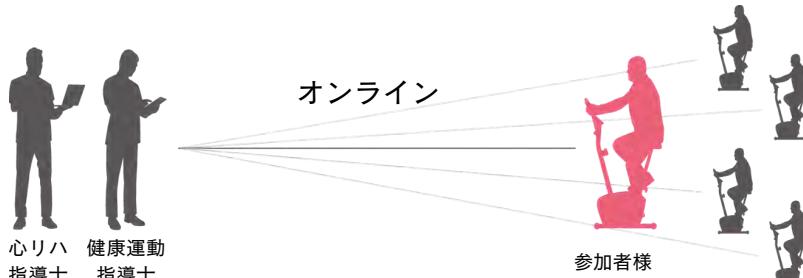
片桐 敬先生

認定NPO法人ジャパンハートクラブ 理事長  
昭和医科大学 名誉学長・名誉教授  
ご専門は循環器内科学・心筋代謝  
一社)日本遠隔運動療法協会 代表理事

これまで私たちが認定NPO法人ジャパンハートクラブで20年間以上行ってきた施設型の心リハの知識と実績を活かしてさらに遠隔型心リハを発展させたいと念願しています。

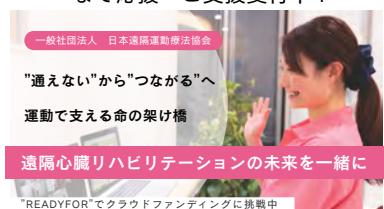
自転車エルゴメータによる運動と心電図等のオンラインによるチェックによって、安全かつ能率的に心リハが行えることを目指しています！

オンライン心臓リハビリテーションシステムイメージ図



クラファン挑戦中！

12月1日(月)  
まで応援・ご支援受付中！



お申込み  
お問合せ

WEBフォームまたはお電話にてお申込みください

テレメディックスクラブ

レディーフォージャレット

03-4400-2250 平日 10:00~17:00 土/日/祝は休日

【主催】



認定NPO法人  
ジャパンハートクラブ



一般社団法人  
日本遠隔運動療法協会



The 29th Annual Academic Conference of the Japanese  
Telemedicine and Telecare Association

第29回

# 日本遠隔医療学会 学術大会

—人口減少社会における遠隔医療の社会実装—

2025年 10月24<sup>金</sup>・25<sup>土</sup>

会 場 出島メッセ長崎

〒850-0058 長崎県長崎市尾上町 4-1

大 会 長 吉嶺 裕之

社会医療法人春回会 井上病院 院長

実行委員長 松本 武浩

長崎大学病院 医療情報部 部長

<https://www.in-tex.co.jp/jtta-2025/>



大会ホームページ

主催事務局 社会医療法人春回会 井上病院 〒850-0045 長崎県長崎市宝町 6-12 ☎ 095-844-1281 FAX 095-849-6622

運営事務局 株式会社 一広 〒850-0036 長崎県長崎市五島町 5-17 ☎ 095-827-6161 FAX 095-824-6611

✉ jtta-2025@ichiko.ne.jp

# 第44回 一般社団法人日本口腔腫瘍学会総会・学術大会のご案内

第44回 一般社団法人日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

大会長 野口 忠秀 (自治医科大学 医学部 歯科口腔外科学講座教授)

第44回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会は、患者様一人ひとりに最善の口腔がん治療を提供するためのチーム医療について考える大会を目指しており、特別講演や教育講演をはじめ、より専門的に広く深い議論ができる講演、企画を準備しております。

また、現地対面およびOn Demand配信のハイブリッド開催を予定し、多くの方にご参加いただきたく思っております。

## 会期

2026年1月22日(木)～1月23日(金)

\*教育研修会は学術大会終了後、On Demand配信予定

## 会場

ライトキューブ宇都宮

〒321-0969 栃木県宇都宮市宮みらい1-20

## 会場ホームページ

<https://light-cube.jp/>

## メインテーマ

「チーム医療」最善の口腔がん治療を目指して

## 演題募集期間

2025年8月16日(土)～9月30日(火) 正午

## 参加登録期間

2025年9月1日(月)～2026年2月28日(土)

## 大会ホームページ

<https://web.apollon.nta.co.jp/jsoo44/>



## 大会参加・登録費

医師・歯科医師 15,000 円

大学院生・留学生 7,000 円

学生（上記以外） 無料

看護師・歯科衛生士・その他の医療者 4,000 円

## 大会事務局

第44回 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 主催事務局  
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1

準備委員長：七條 なつ子  
(自治医科大学医学部歯科口腔外科学講座)  
実行委員長：杉浦 康史  
(自治医科大学医学部歯科口腔外科学講座)

## 運営事務局

第44回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 運営事務局  
〒105-0012 東京都港区芝大門2-3-6 大門アーバニスト401  
株式会社ブランドウ・ジャパン内 担当：山岸 浩史  
TEL: 03-5470-4401  
FAX: 03-5470-4410  
E-mail: [jsoo44@nta.co.jp](mailto:jsoo44@nta.co.jp)

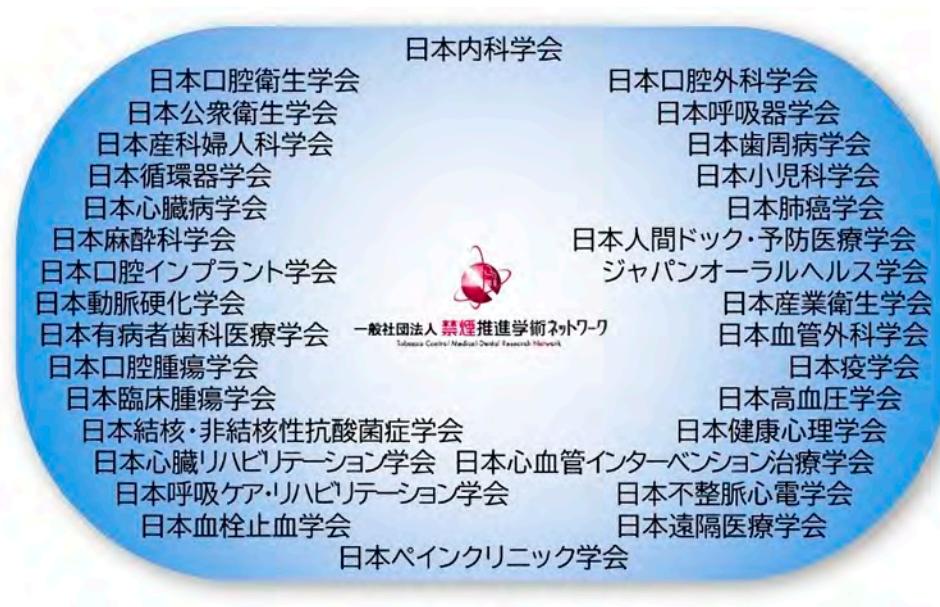
# 大会運営組織

## 会長

田淵 貴大(東北大学大学院医学系研究科)  
三浦 雅彦(東京科学大学大学院医歯学総合研究科)  
長谷川 高志(日本遠隔医療協会)

## 主催

一般社団法人禁煙推進学術ネットワーク



## 共催

一般社団法人 日本公衆衛生学会  
一般社団法人 日本口腔腫瘍学会  
一般社団法人 日本遠隔医療学会

第7回禁煙推進学術ネットワーク学術会議事務局

〒370-0033 群馬県高崎市中大類町37-1

高崎健康福祉大学健康福祉学部 医療情報学科内(日本遠隔医療学会事務局内)

TEL・FAX 027-350-7475

MAIL 7th-tcr@j-telemed-s.jp

<https://j-telemed-s.jp/7th-tcr/>

